タイ北部低地社会における文化資源に関する研究
ーチェンマイ県 サンパトン郡 T 集落を事例としてー

建設工学専攻　　ME15026　岡本 麻梨子
住環境計画研究　　指導教員　清水 郁郎

1. はじめに

1.1 研究背景

現在、観光は国の経済を支える大きな柱となっている。もともと資源や産業の乏しい国では、観光開発と国の発展はほぼ同義であった。これは東南アジアでも同様で、景観や自然、食文化や伝統工芸、そして王権や宗教と関わりのある遺跡や建築物等が観光の対象となり、多くの観光客を集めている。

研究対象地であるタイ王国（以下、タイ）では、1991 年にスコータイやアユタヤ等の歴史都市が世界遺産に認定されたのをきっかけに、国内の観光化はさらに進んだ。

従来、観光開発を行う主体は国や行政、企業などであり、大規模な資本投資が行われた。こうした観光は、国家や都市レベルで利益があった。しかし近年、エコツーリズムやグリーンツーリズム、エコミュージアム等の常在型の観光が広がっている。こうした観光は、資本投資が少ないこともあり、住民が主体となって地域社会レベルで行われている。東南アジアでは、このような常在型の観光が広く波及しつつある。

1.2 研究目的

本研究では、タイにおいてもともと人が生活するための資源であった住居や集落を、観光資源化している地方農村の T 集落を対象とする。T 集落を事例として、地方農村における居住文化や居住空間を、住民自身が観光化する様態を考察し、地域社会の持続的発展の可能性を探る。

1.3 調査概要

·調査期間:2014 年 9 月 22 日～10 月 1 日、2015 年 9 月 16 日～21 日、2016 年 9 月 25 日～10 月 1 日
·調査地:タイ チェンマイ県 サンパトン郡 T 集落
·調査方法 フィールドワークを行い、インタビューと住居の実測、集落全体の実測を行った。

(1)実測調査

住居（全 20 軒）の平面図（1/50）、断面図（1/30～50）、敷地図（1/100～200）、集落図を実測により作成した。

(2)インタビュー調査

事前に作成したインタビューシートをもとに、各住居の代表者に聞き取り調査を行った。インタビュー項目は家族構成・年齢・職業等の基本事項、生活について、1 日のスケジュール、住居の間取り、住居の増改築に関すること等である。

2. 調査地概要

2.1 ランナータイ

13 世紀後半スコータイ王朝の建国と同じ頃、タイ北部ではマンラーイ王がモン族のハリプンチャイ王国を侵略し、チェンマイにランナータイ王朝を建国した。ランナータイ王朝は、アユタヤ王朝と戦いながらも勢力を増し、タイ北部やラオス北部、中国雲南省南部、ミャンマー東部のシャン州まで拡大した。現在のチェンマイに住むユアン族はランナータイの末裔であり、北部では最も有力な民族である。またその伝統文化はランナータイ文化と呼ばれる。ユアンは“ムアン（城市）の人”を意味するコン・ムアンとも呼ばれる。

2.2 T 集落

図 1　T 集落全体図

T 集落はチェンマイ市街から南に約 30km の、ピン川の支流であるカーン川沿いに位置する。集落の西側には多くの住民が生業とするラムヤイ畑や水田が広がっており、北西部にはドン・チャイ Dong Chai 寺がある。集落の中央部の広場には、集落全体の守護精霊を祀る祠がある。人口は 661 人で、住居は約 200 軒ある。ほとんどの世帯が、ミャンマーのシャン州ケントゥンから 300 年以上前に北部タイに越境してきたクーンである。住民の多くが、精霊信仰と上座部仏教を信仰している。

3. 伝統文化を保存するための活動

3.1 村落委員会

T 集落では、集落の維持や発展、文化保存等を目的とする委員会を、儀礼や集落の歴史を知る人々が中心となって組織している。委員は 29 人で、農業や文化、保健等の幾つかの項目に役割分担されている。

3.2 博物館

T 集落では、クーンの人々が以前使用していた農具や伝統工芸品、生活用品等を集めて展示している博物館がある。博物館は平屋と 2 階建ての 2 棟からなり、個人の所有物である。所有者によると、現在では外来の農機具が多く流入し生産効率は大きく上がったが、稲作を中心とする農業を生業としてきたクーンとしては、昔の農具は後世に残していくべきだという。

3.3 書籍

先述の委員会が県の補助金を得て作成した、クーンの文化を紹介する「T 集落のクーンの文化」と題された冊子がある。第 1 章の「歴史」では、クーンの民族的起源や集落の歴史、ドン・チャイ寺の歴史等が記述されている。第 2 章の「生活」では、衣食住や医療、信仰等が記述されている。第 3 章の「文化の継承」では、織物や漆器等の伝統工芸品、また前項の博物館が紹介されている。第 4 章の「古老たち」では、クーンの文化を継承してきた人々が紹介され、第 5 章の「文化復興・継承活動」では、実際の活動や文化的イベントを紹介している。

3.4 ホームステイプロジェクト

このプロジェクトは、2015 年から始動し、今後行政にも承認される予定である。内容としては、有志によってホームステイ先として登録された民家に、数泊滞在し集落内外のスタディーツアーに参加するというものである。費用は 400～500 バーツ（1 バーツ＝約 3 円）程度で、朝夕の伝統料理や集落内外の散策、T 集落やクーンの特徴等を体験できるようになっている。将来的には、ターゲットを拡大し、周囲の集落と協働でスタディーツアーを行う等規模を拡大していく予定である。

4. 観光資源化される居住文化：集落

T 集落は、南村と北村に分かれている。南村の南西部には火葬場、北西部には旧小学校、北西端には寺院がある。中央部には、前述の集落全体の守護精霊を祀る祠があり、北村には北村の守護精霊を祀る祠がある。また、集落内には一族の先祖を祀る祠が 2 カ所ある。集落の人々は、行事ごとにそれぞれの祠を訪れ祈願する。

寺院は、上座部仏教を信仰する人々にとって、寄進や祈願をする場である。また、公教育が普及する以前は、子供達への教育の場でもあった。ドン・チャイ寺は約 200 年前に建設され、現在は寄進や祈願をする以外にも、高齢者を中心とした人々の憩いの場になっている。

集落内には、一族の初代の祖先を祀っている祠が 2 カ所ある。初代の祖先は、男性ではなく女性である。この祠は、T 集落の創立者が住んでいたとされる場所に位置している。

集落の中心となる広場には、集落全体を守る男性の神を祀る祠がある。祠は 2 つ並列に設置されている。また北村には、一定の地域を守る女性の神を祀る祠がある。住民は 5、60 年前から参拝しており、3 年前に祠を建設した。

5. 観光資源化される居住文化：住居

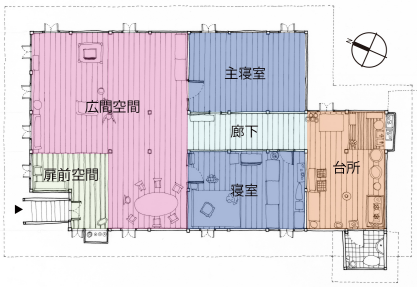

図 2 間取り構成例

T 集落を含めて、北タイの伝統的な住居形式は竹や木造の高床式住居である。T 集落の住居は主に扉前空間、 広間空間、寝室、廊下、台所等で構成されている。

住居には「男の柱」、「女の柱」という意味を持つ 2 本の神聖な柱が存在する。これらの柱は一対となって立てられる場合が多く、2 本の柱は必ず東側の主寝室にあり、東側の壁の中央に男の柱、西側の壁の中央に女の柱が立てられている。また男の柱は、住居の建設時に最初に立てる柱である。

就寝形態には、頭の向きと男女の並び方について共通するルールがある。頭の向きについては東側か南側に向けるのが良いとされ、年長者の寝室で重要な柱がある東側の寝室の場合、男の柱側に頭、女の柱側に足を向ける。男女の並び方については、男性＝右、女性＝左という考え方がある。

屋敷の一角には、屋敷を守る神が祀られている祠がある。広間空間の一角には、主に仏像等が置かれた仏教祭壇がある。住居の中で最もプライベートな空間である寝室には、テワダー Thevadaa と呼ばれる住居を守る神が祀られている祭壇がある。それぞれの祭壇に対して、行事ごとに供え物をして祈願する。

伝統的な結婚式は、住居内で行われる。新郎新婦の座る配置については新郎が右側、新婦が左側に座る。これは就寝形態と同様男性＝右、女性＝左という考え方による。僧侶を住居内に招き行う宗教儀礼は、基本的に広間空間で行う。仏教祭壇が配置されている場所が空間的に最も上位で僧侶、男性、女性の順で座る。

6. 観光資源としての表象

T 集落の人々は、なぜ集落や居住空間を文化資源化し残そうとするのか。また、それを他者に見せようとするのか。前述した土地神やテワダー等は、T 集落固有のものである。T 集落は、祖先からはじまり、土地神への祈願によって存続してきた。住居にはこうした様々な信仰が埋め込まれており、実践宗教と関わりながら存在している。人々が表象しようとしているものは、伝統的な間取りや形式に近い民家であり、こうした関わりを含むそこでの「暮らし」である。つまりクーンであること、エスニックアイデンティティを建築物や居住文化を通して示そうとしている。これは、国民国家タイに対するある種の「抵抗」ともいえる。

一方で、こうした自主的活動は首都の一人勝ちであるタイの地方農村にとっては、極めて新しい出来事だといえる。タイは、1970 年代という比較的早い段階から観光開発が行われてきた。その際の観光資源は、遺跡や自然、文化等であり、特に際立った特徴を見出せない低地社会の農村は放置されてきたのである。政治や大規模な投資に期待するのではなく、自分たちの伝統的文化を使って、できる範囲で行う活動を通して、自分たちの社会を維持・活性化しようとする新しい動きといえるだろう。

参考文献

1) 須永和博『エコツーリズムの民族誌 北タイ山地民カレンの生活世界』春風社, 2012 年
2) 山下晋司編『観光文化学』新曜社, 2007 年
3) 真板照夫, 石森秀三, 海津ゆりえ編『エコツーリズムを学ぶ人のために』世界思想社, 2011 年